

日本科学未来館イベント「こどもからみる不思議世界探求」
にご参加いただいた皆様へ

2024年1月20日-21日に上記イベントにご参加いただき、誠にありがとうございました。多くのお子さんとその保護者の方に参加協力いただき、大変貴重なデータを得ることができました。心より感謝いたします。

ここでは鶴見の担当した「わたし」の身体を把握する」というテーマの実験結果について、基礎的なデータ解析が終わりましたので、参加された皆様全体の傾向について報告します。

研究実施者：鶴見周摩(北海道大学)

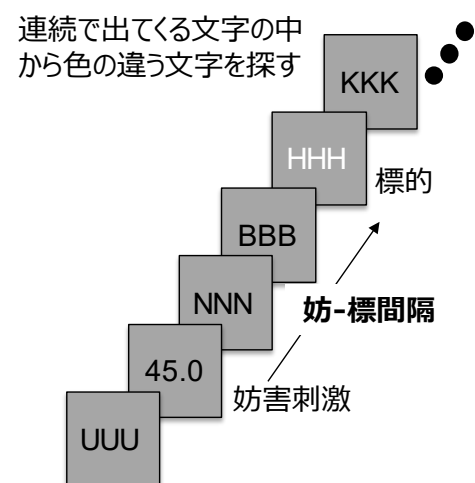
E-mail : stsurumi@let.hokudai.ac.jp

研究統括者：山口真美(中央大学)

研究概要

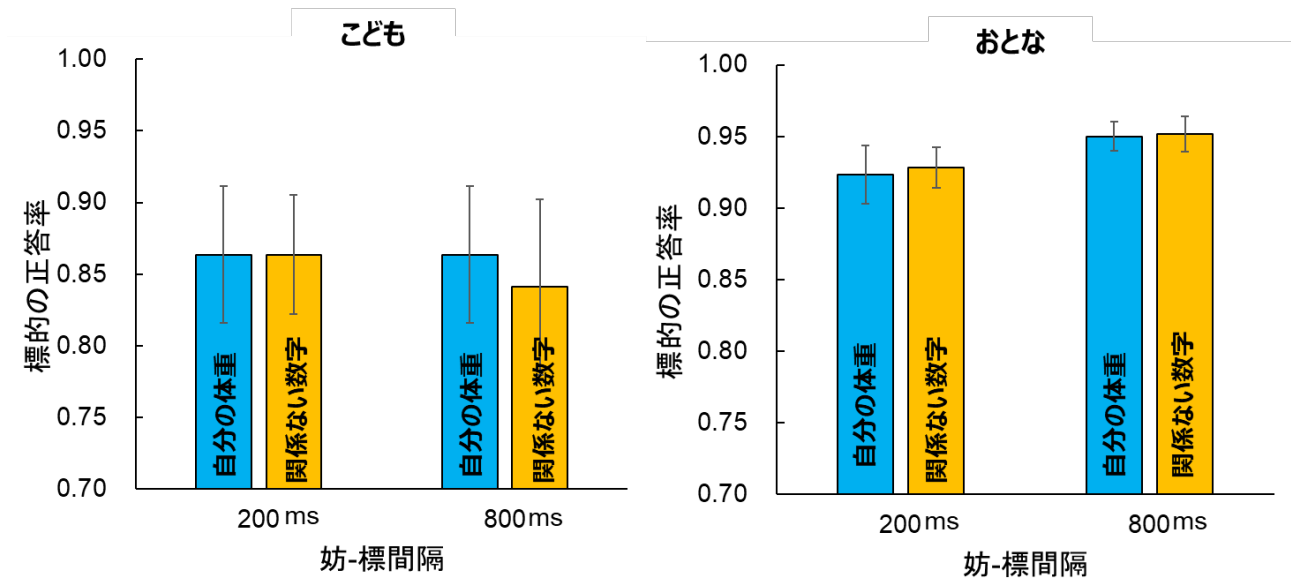
どのくらい自分の身体を把握できていますか？体重や身長、体温やBMI…など数値として計測できる身体指標はいくつもあります。中でも体重や身長は生まれてから今に至るまで多くの人の関心対象ではないでしょうか。太りたくない、筋肉をつけたい、と思う人にとって体重はかなり意識してしまうと思います。例えば、自分の身体に満足していない人では理想の体型や理想ではない体型の写真に注意が向いてしまうことが報告されています(Cass, Giltrap, & Talbot, 2020)。

こうした身体指標にどのくらい我々が敏感になってしまうのか、今回この点を調べるために課題を実施させていただきました。具体的には、画面中央に短い時間で連続的に提示される白文字の中から黒文字が何であったのかを回答していただきました。この黒文字を標的と言い、その標的が提示される0.2秒前、あるいは0.8秒前に、最初ご自身で回答いただいた体重の数値か全く関係のない数値が提示されます。これまでの研究から、注意を引き付ける情報(例えば顔写真や怖い画像)が標的の直前(0.2秒~0.5秒の間)に出ると標的が何であったのかわからなくなってしまうことがわかっています。一方で、十分な時間が空いているとき(0.6秒以上)には、標的を正確に回答できます。



結果

まず、おとなとこどもで標的の正答率に差がみられ、おとなの方が簡単な課題だったと考えられます。自分の体重でも関係のない数字でも正答率に差がみられなかったことから、今回、自身の体重に注意が向くということは見られませんでした。もしかしら、体重の数値はそこまで関心のある指標ではないのかもしれません。実際、体重をすぐに思い出せない方もいらっしゃると思います。普段から意識している人では注意が向くかもしれません。



以上から、今回のイベントのデータは自身の体重に敏感ではない可能性を示すものといえます。ただし上記のように、個人が持つ身体に対する態度によっては体重に注意が捕捉されるかもしれないため、さらなる研究が必要になると考えています。